

3月4日と5日の行動の報告

3月4日午前11時過ぎ、4名で県庁内の各会派を回り要請文を提出しました。どの会派も委員会直前で大変慌ただしい様子でしたが、粘って要請文の趣旨を説明しました。提出された議案や意見書について、会派の意見をまとめるところだったようで、私たちの要請はギリギリ滑り込んだという印象を持ちました。

3月5日は午前9時30分から県庁前でスタンディングを行いました。急な呼びかけにもかかわらず、集まってくださったのは15名余りの方達でした。南相馬市や郡山市からも駆けつけてくださいました。ありがとうございました。それぞれがマイクを持ち、国の教育現場介入に大きな危機感を持つこと、ALPS処理汚染水の海洋投棄に反対する思いを訴えました。私たちのアピールを聞いていた方から「がんばれよ！」と応援があったり、県庁に用があって来た方が近寄ってきて「要請文を読んだが、その通りだ。汚染水なんて海に流したら大変なことになる。声は上げていかなきゃいけない！」と立ち話をしていました。

午前11時から商労文教委員会が始まりましたが、審議が長引き、議員提出議案の審査は午後の委員会となりました。商労文教委員会の構成は自民党が5名（内一人が委員長）、県民連合が3名、日本維新・無所属が1名、共産党が1名の10名です。午後の委員会で、共産党は否決、自民党、日本維新・無所属は可決を表明しました。県民連合も結論としては可決でしたが、やはり教育現場への国の介入という問題は残るという意見が出されました。委員長は全員一致とならないので、今日の委員会では方向付けはせず、3月18日の委員会で結論を出すとなりました。

県民連合（18人）は会派内で統一見解を出すことができなかつた印象を持ちました。会派内で少なくない議員が自民党意見書には問題があるとしたと想像します。議員個人の見解や意見もあったかと思いますが、私たちの要請や市民の声の後押しは影響大だったと思います。さらに、今日の傍聴者は定員の15名でした。目の前にずらりと市民が並んでいる中、議員はこの意見書に市民県民は大きな関心を寄せていると肌で感じたと思います。